

4 実践ポスター発表

<p>D ブース発表 4-D-1 「マイツリーの歌を作ろう」</p> <p style="text-align: right;">山本直樹(関西大学初等部)</p>
--

- 1 単元名 しぜんとともにだち～マイツリー活動～
- 2 第2学年, 教科 生活科
- 3 身につけさせたい力

A-1-Lv1 自然との関わりの中で体験したことから課題を発見できる。

B-2-Lv1 自然体験活動の写真を見て, 様子や状況を言葉で表すことができる。

C-1-Lv1 自然体験活動の経験から, 伝えるべき内容を考えることができる。

D-1-Lv3 自他の考えを組み合わせながら, 集団として1つの歌詞にまとめることができる。

4 メディア創造力を高める学習のプロセス

(1) 指導計画 (時数)

学習のプロセス	時	ねらい	主な学習活動 (○) と内容 (・)
活動内容を知る	1	1年間の歌作りについて見通しをもつ。	○マイツリー活動のオリエンテーション ・1年を通してマイツリーの歌を作っていくことを知る。
体験活動をする	2 (×4)	五感を使って, 春・夏・秋・冬の季節を感じる。	○万博記念公園でのマイツリー活動 ・自分の木 (マイツリー) を決めて, 観察をする。(年4回) ・マイツリー以外の植物や昆虫などの観察をしたり, 自然体験活動をしたりする。
歌を作る	3 (×4)	体験したことを言語化した詩と, メロディーと合わせて歌を作る。	○マイツリーの歌 歌詞作り ・イメージマップで季節のイメージを可視化する。 ・班で詩のアイデアを話し合う。 ・学級全体で話し合い, 一つの詩にまとめる。 ・作曲は立候補した子が行う。 ・タブレット端末でカラオケ作りをする。

※完成した歌は, 学級活動や校外学習時に歌っていく。

(2) 実践の流れ

○ 子どもたちの様子や教師の手だての工夫など

本校の2年生活科では, 「しぜんとともにだち」という単元の中で, マイツリー活動を行ってきた。マイツリー活動とは, 大阪府吹田市の万博記念公園にある木の中から好きなものを自分の木とし, 四季の変化を観察するというものである。自然観察学習の支援をしているボランティア団体の協力の元で, 年間4回の校外学習を設定した。この校外学習では, 単にマイツリーの観察をするだけでなく, 夏は木登り, 秋は池の生物採集や自

然のものを使っての遊びなどさまざまな自然体験活動も行った。これらの活動では、五感を使って自然を感じることを大切にしてきた。

このマイツリーへの思いを高める手立てとして、学年でマイツリーの歌作りをすることにした。季節ごとのマイツリー活動の後にその歌を作るという一連の流れにより、観察活動への子どもたちの主体性を引き出すこともねらいとしている。

作詞は、全員で行った。作詞の前には、マイツリーのイメージを広げる活動を行った。使用した思考ツールは、イメージマップである。子どもたちには、マイツリー活動の際に五感で感じたことを書いたシート（くま手図）を持たせた。そして、班に一つのイメージマップ（ホワイトボード）を与えて、マイツリー活動をふりかえりながら、そのイメージについて話し合いをさせた。中心には、マイツリーの文字、まわりには五感（目・鼻・口・耳・手）のイラストを配置し、そこから自由に各季節のイメージをふくらませていった。

作曲は音楽好きな子が立候補してメロディーを作り、それを学年の子みんなが承認する形をとった。歌のカラオケ作りは、タブレット端末で行った。メロディーへのコード（和音）付けは教師が行い、子どもたちは音楽制作アプリ上にコードを打ち込む作業を行った。この作業は指1本でできるので、2年生でも簡単にカラオケを完成させることができた。



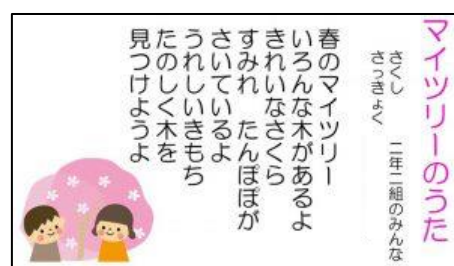
○ 「メディア創造力」育成は、ここで！

作詞の流れは、はじめに班ごとに詩の原案を作り、最後に学級全体で交流して一つの詩にまとめることとした。マイツリー活動を振り返る手立てとして、活動時の写真をタブレット端末で閲覧できるようにした。この手立てにより、写真と詩（テキスト）を往復しながら創作活動する光景がどの班でも見られた。

また、詩を作る際、校外学習で体験したことや五感で感じたことを大切に言語表現するように指導した。実際に子どもたちが作った春の詩には、「すみれやたんぽぽがさいている」という一節があるが、これは校外学習で花を観察した活動が元になっている。また夏の詩にある「木の香りが手についたよ」という一節は、木登りした時に感じた匂いが元になってできたものである。さらに、全体で詩のアイデアを擦り合わせる話し合いの際、万博記念公園における学習活動との整合性がないものは修正を余儀なくされるケースがあった。例えば、ある班の詩の案に「木を育てよう」という一節があったが、これについては「自分たちが木を育てるわけではない」という理由で「木を見つけよう」に修正した。このように、自分たちが経験したこと、五感で感じたことを学級みんなで建設的妥協点を探りながら、一つの作品に仕上げるという活動を行った。

5 メディア創造力の評価

学級全体で一つの詩にまとめる活動の際に、自分のものよりよい案があれば建設的に妥協する姿が頻繁に見られた。完成した歌は、子どもたちのお気に入りとなり、休み時間にも口ずさむ子もいた。低学年での歌作りは本プロジェクトで初めての試みであったが、目的意識を持たせたり手立てを工夫したりすることで、2年生でも十分に取組めることが検証できた。



4 実践ポスター発表

D ブース発表

4-D-2 日常的な新聞教材活用と国語科「想像力のスイッチを入れよう」の学びを通して
つくろう！メディア・トリセツ5の4バージョン

海道朋美(石川県金沢市立田上小学校)

1 単元名 つくろう！メディア取扱説明書（「想像力のスイッチを入れよう」光村図書）

2 第5学年, 国語科

3 身につけさせたい力

・教材文の事例と意見を整理して、筆者の主張である「情報は発信側の意図によって切り取られたものであり、想像力を働かせて受信することの大切さ」を読み取ることができる。

・「想像力のスイッチ」を身近な情報受信に活用することを通して、情報との関わり方について自分の考えをまとめることができる。 **【B-2-Lv2】【B-3-Lv3】**

4 メディア創造力を高める学習のプロセス

(1) 指導計画 (全10時間)

学習のプロセス	時	ねらい	主な学習活動(○)と内容(・)
相手意識・ 目的意識をもつ	1	メディアへの 興味関心を高 め、課題意識 と見通しを持 たせる	○ 「メディア」って何？ ○ 写真(メディア)で情報発信してみよう ・ テーマ「5年4組といえばこれでしょ！」 ・ 一人ひとりの思いが違うから写真も違うね ・ メディアが伝える情報は発信者によって違うの？ ・ どのように情報を受け取ればいいのか？ ○ 情報社会を生きる自分と仲間のために 《メディア取扱説明書をつくろう！》
見る 「想像力のスイッチを 入れよう」光村図書	4	教材文の事例 と意見を整理 して筆者の主 張を読み取る 【習得】	○ 教材文から、メディアとの関わり方について 筆者の主張と「4つのキーワード」を読み取る あなたの努力は「想像力のスイッチ」を入れること ・ メディアが伝えた情報・・・「事実かな印象かな」 ・ 「他の見方もないかな」 ・ 伝えていない情報・・・「何がかくれているかな」 ・ 結論を急がないこと・・・「まだ分からないよね」
見せる・つくる	4	身近な情報で の疑似体験を 通して、自分 の考えをまと めることがで きる 【活用】	○ 絵本『窓を広げて考えよう』(下村著)にある 情報事例で「4つのキーワード」を活用する 疑似体験を行う ○ 日常的な新聞教材の情報受信について「4つ のキーワード」の視点でふりかえる ○ メディア(情報との)関わり方について、自分 の考えを、具体的事例を使って書きまとめる メディア・トリセツ5の4バージョン完成！
振り返る	1	メディアとの 関わり方を振 返ることがで きる	○ メディア取扱説明書を読み合い、学習をふり かえる

(2) 実践の流れ

①日常的な新聞教材活用から見える子どもたちの情報受信の実態

朝学習（週1回）に「新聞タイム」を設定し、朝日学生新聞（*）を読んで感想意見を書くことを継続してきた。この感想意見には、情報受信者としての子どもの実態が伺える。情報を事実として疑うことなく受け止める様子や自分視点でのものの見方、また極端な受け止め方も見られた。例えば、鳥インフルエンザの記事を読んで「鳥には触らない」、風邪薬の成分による呼吸障害の記事を読んで「風邪をひいても薬は飲まない」等である。このような実態に対して、「情報は発信者が意図して構成したもの」等のメディアが伝える情報の特性とともに、情報に対する見方・考え方を広げて判断できる力を育みたいと考え、次のような手だてで学習を進めた。



*新聞教材として、理想科学工業と朝日学生新聞社から提供されたものである。

②手だて1：自他の「情報受信の違い」を日常的に取り上げて広める

7月の「ヒアリ発見」記事について、多くの感想は人間視点から「怖い、不安、石川県に来て欲しくない」等だったが、ヒアリ視点の感想が1つあった。ここで教師は、立場を変えると見方が変わることを紹介した。このように、日常的な新聞教材活用の過程で、「違い」を意識して取り上げ、情報の見方・考え方を広げる機会としてきた。

③手だて2：国語科「想像力のスイッチを入れよう」（説明文）での取り立て学習

メディア・リテラシーを内容とした説明文である。【習得】した「想像力の4つのキーワード」を、身近な情報事例に【活用】する場を設定した。まず、全員が絵本素材で疑似体験。次に、各自が毎週読んできた新聞教材に「4つのキーワード」を活用した。これによって、立場を変えた「他の見方」や伝えられていない「かくれた情報」を想像する等、情報の見方・考え方を広げる様子が見られた。

④「メディア創造力」育成は、ここ！

情報との関わり方については、「メディア取扱説明書」として、自分の考えと根拠となる具体的事例を記述することとした。ここには、「メディアは事実全てではなく、切り取られ情報である」という特性とともに、「信じ込み過ぎず、立場を変えたり、隠れている情報を想像したりして、結論を決めつけ過ぎないこと」を、メディアとの関わり方として整理するものが多く見られた。また、具体的な情報事例を根拠とするその記述には、【習得】した情報の見方・考え方を身のまわりの情報に汎用させている様子を見ることができた。

- 「サウジアラビアアラビア女性車運転解除」記事
(以前)「かわいそう。自分がその国の人だったら、とても不愉快で楽しくない」
→ サウジアラビアの女性にとっては「よかった」と思う見方ができる
- 「LINEを通じて悩み相談続々」記事
(以前)「これを読んでいいなと思いました。」
→ ラインの相談で、また死にたいあの事故にもつながりそう
- 「鳥インフルエンザ」記事
(以前)「私は、鳥はかわいくてさわりたくないけど、すごい死ぬ確率が高い、インフルエンザにかかるので今度から気をつけようと思いました」
→ 鳥の目線で考えてみたら、鳥も関係するから助けてあげないといけな

5 メディア創造力の評価 【B3「制作物の内容と形式を読み解く力」】

「メディアを読み解く力」については、メディアの特性を理解した上で、伝えられた情報だけでなく伝えられていない情報へも想像力を働かせて「結論を急がない」で判断することを学び、具体的な情報事例への活用を通して、情報の見方・考え方を広げる姿が見られた。

しかし、課題も残る。例えば「サウジアラビアの女性にとってはよかったとの見方」は正しいのか。これは想像に過ぎず、好き勝手な想像では正しい判断はできない。ではどうすればよいのか。例えば事実を調べる。その事実が見方をまた変容させる可能性もある。「メディアを読み解く力」を身に付ける上でも、「事実を知る」「体験する」ことの大切さが考えられる。

4 実践ポスター発表

D ブース発表

4・D・3 「明らかになった附属小学校の謎を全校に発信しよう」

福田 晃(金沢大学附属小学校)

- 1 単元名 追究！附属小の歴史にかくされた謎！
- 2 第3・4学年（複式学級），教科 総合的な学習の時間
- 3 身につけさせたい力

A-3Lv.3：全校発表という目的意識のもと，学習に主体的に取り組むことができる。

B-1Lv.2：プレゼンテーションの見本を見ての上手なプレゼンテーションの構成要素を理解できる。

C-1Lv.2：これまでの学習で得られた情報を整理し，伝えるべき内容を考えることができる。

C-2Lv.2：相手や目的に応じて，各自が表現手段を選択することができる。

D-1Lv.3：発表内容及び方法に関するメンバー間の多様な考えを一つにまとめることができる。

D-2Lv.3：他者からの指摘を受け，自身の発表における改善案を考えることができる。

4 メディア創造力を高める学習のプロセス

(1) 指導計画（時数）

学習のプロセス	時	ねらい	主な学習活動（○）と内容（・）
相手意識・目的意識をもつ	1	成果報告会における学習計画を立て，テーマを選択する	○学習のゴールを共有し，計画を立てる。 ・全校に向け発表することの必要性を実感させ，これまでに調べて明らかになったことを振り返り，自身の発表テーマを決める。 「どうして校章がかしわになったのか」など
見る	1	相手が納得するプレゼンテーションにおけるコツをつかむ	○プレゼンテーションのグッドモデルから参考にすべき点をつかむ。 ・賞賛されているプレゼンテーションを視聴し，優れている点について話し合う。
つくる	3	内容を確定し，プレゼンテーション資料を作成する	○テーマに即して，発表準備を行う。 ・テーマに関する情報を整理し，発表の構成を考え，タブレット端末などを活用し，資料を作成する。
見せる	1	発表における改善の視点をもつ	○保護者から，発表に関する指摘をもらう。 ・自身の発表のいたらなさを体感させる。
見る・振り返る つくる	3	発表を見直し，修正を行う	○保護者からの指摘をもとに発表を見直し，修正を行う。 ・自身の発表映像，過去に視聴したグッドモデル，NHK for School を視聴しながら修正を行う。 ・発表の内容に関する点を修正する際には一次資料に立ち返り，情報を見直す。
見せる・振り返る	2	全校児童に発表し，学習を振り返る	○実際に発表し，反応をもらう。 ・単元における自身の学びを振り返る。

(2) 実践の流れ

○ 子供たちの様子や教師の手立ての工夫など

総合的な学習の時間において、附属小学校の歴史について調べているのは複式学級だけである。二学期には国語科において、附属小学校の歴史に関するパンフレットを作成し、調べたことを発信することを行ってきた。例えば、玄関前に何気なく置かれている銅像の意味やそこに込められた作成者の願いなどといった、普段目にしているものに関する見えない情報を伝えたこともあり、他学年の児童からも反応があった。

本単元の導入部では、他学級の児童の日記を提示した。

「複式学級の人から、かしわの木がどうして広場にたくさん植えられているかを聞いてびっくりしました。もっと知りたいなと思いました。」

児童は、自分たちの学びに自信があることため、「全校のみんなに資料とか見せて伝えたい。」といった発言や「かしわの木のことを伝えたら、もっとみんな大事にしてくれるんじゃない。」といった発言があった。そこで、それらの児童の発言を整理する中で、全校の児童に向け（相手意識）、附属の歴史について知ってもらう（目的意識）ことを学習のゴールとして設定した。

○ 「メディア創造力」育成は、ここで！

各自がテーマを設定し、同じテーマのグループメンバーで構成を考え、発表資料を作成していく。社会科、国語科、総合的な学習の時間を中心に、構成を考え、資料をもとに相手が納得するような発表を行うということはこれまでに行われてきた。児童らは自分たちの発表に自信を持っていた。だが、実際は、「そもそも附属小が別の場所にあった」ということや「かしわの木が学校のシンボルとなった経緯」など複式学級以外の児童が分かっていないことを発表に取り上げていないこともあり、知らない児童が聞いたら疑問が残る発表が大半であった。

そこで、保護者に来校してもらい、自分たちの発表の不十分さを実感する場を設定した。保護者には「手厳しい指摘が彼らの学びにつながる」ということを伝え、発表における課題を指摘してもらった。具体的には、「かしわの木のねばり強さが関係しているが、かしわの木がなぜねばり強いということになるのか。」といった内容に関する指摘や「写真を取り上げているが、写真と伝えようとしていることが合っていない。」といった方法に関する指摘をしてもらった。当初は意気消沈していた児童も相手意識・目的意識が明確になっていたこともあり、次時には指摘内容をもとにどのように修正していけばよいかを考えていた。かしわの木とねばり強さの関係性について指摘を受けたグループについては、かしわの木が冬でも葉が落ちないという”ゆずり葉”の特性を新たに発表に組みこんでいた。

このように「ふり返し」、「再度作る」こととなる学習サイクルを意識的に取り入れた。



保護者に発表する児童

5 メディア創造力の評価

同じグループメンバー間で毎時間ふり返しを行なうことを授業に位置付けた。どんな気づきが得られたのか、自身の貢献内容を記述するワークシートを準備し、自身の学びを振り返らせてきた。あるグループでは、取り上げる情報をどれにするかで対立していた場面があった。そのグループの児童は振り返りの中で、「相手の考えを理由までしっかり聞かないからこんなことになったんだと思う。」と自分たちの学びをメタ認知している姿が多数見られた。

4 実践ポスター発表

D ブース発表

4-D-4 「『パラスポーツ研究報告会』を開こう」

近藤 睦(神奈川県横浜市立港北小学校)

- 1 単元名「おうちの人がパラスポーツを応援したくなるような『パラスポーツ研究報告会』を開こう 教材：聞き取りメモの工夫（光村図書）
- 2 第4学年，教科 横浜の時間（総合と関連させた国語科「話すこと・聞くこと」）
- 3 身につけさせたい力

【A-1-Lv2】 地域の盲特別支援学校に通う友達と出会い，地域の特徴に気づき，必要感をもって様々な福祉体験を行う。そこから自分なりの問題意識をもち，探究的な学習を進めることができる。

【A-2-Lv2】 パラスポーツに携わる人に取材したり，図書資料，web等から情報を集めたりすることができる。

【A-3-Lv2】 学習計画を立てる前に既知と未知を整理し，この単元で身につけるべき能力について自覚することを通して単元全体の見通しをもつことができる。

【C-1-Lv2】 人への取材や，図書資料，web等から集めた情報を比べたり，まとめたりして主張を決めることができる。事例の内容を選んだり，順番を決めたりすることができる。

国語科において重点化した指導事項「A 話すこと 聞くこと」話すこと ア・イ 聞くこと エ 「『パラスポーツ研究報告会』を開く」という目的に応じた話題を決めて，理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話し方の工夫を考えて話し，話の中心に気をつけて聞き，質問したり感想を述べたりする。

4 メディア創造力を高める学習のプロセス

(1) 指導計画（国語7時間＋総合）

学習のプロセス	時	ねらい	主な学習活動（○）と内容（・）
相手意識・目的意識をもつ	総合	年間の活動体験をもとに相手意識・目的意識を明確にする。	○「おうちの人がパラスポーツを応援したくなるような『パラスポーツ研究報告会』を開こう」という学習課題を設定し，学習計画を立てる。 ※大まかな情報収集は既習として捉え，総合的な学習の時間に行う。
	1	音声言語を聞き取る際のメモの取り方についてその手法を具体的に考える。	○聞き取りメモの工夫を考える。 ・メモにはキーワードや短い文で書くこと ・インタビュー後に質問したいことに印をつけておくこと ・記号や省略を効果的に使うこと
	総合		ゲストティーチャーの話聞く。
見る	2	モデルの動画を提示し，この単元のプレゼンテーションの特徴と効果的な話し方とを考える。	○既習事項を確認し，プレゼンテーションの話し方を考える。 ・写真，動画，既習の報告会原稿を見ながら既習の報告会との違いを考えること

作る	3	パラスポーツに携わる人への取材や、図書資料、web等から集めた情報を比べたり、まとめたりしながら主張を決める。事例の内容を選んだり、順番を決めたりする。	○事例を決める。 ・事例を選ぶために情報カードを比較したり、関連付けたりして内容を決めること ・話すために必要な再取材をすること
	4		○構成を決める。 ・内容と事例が適切か助言し合い選ぶこと
5	○スライドの内容を決める ・短くまとめた言葉で書くこと ・構成メモと対応させること ・内容に合った適切な写真を選ぶこと		
	総合		スライド作成をする。
見せる 振り返る	6	相互評価によってブラッシュアップする。	○発表練習をする。 ・提示のタイミングや方法を決めること ・聞き手の反応を感じながら表現すること ・話し手の意図を考えながら聞き、聞き手の立場でアドバイスをすること ・要点に沿ってメモを取りながら友達の発表を聞き、質問すること。
	総合		保護者を招いて報告会を開く。
	7	学習した内容と自分の課題の達成とをつなげて振り返り、身についた力を自覚する。	○自分の話し方について振り返る。 ・自分の課題に沿った振り返りをする事 ・次の学習につなげる課題を見出すこと

(2) 実践の流れ

○ 子どもたちの様子や教師の手だての工夫など

問題意識の醸成や学習計画は、一年間の活動を踏まえて総合的な学習の時間に行う。単元の中で国語はどの部分を担うのか、学習者ともに明らかにし自覚させる。国語として話すこと聞くことの指導事項について既知と未知を整理し、この単元で身につけるべき能力について自覚することを通して単元全体の見通しをもたせる。そして毎時間ごとに一人ひとりが具体的なめあてをもつことで主体的に学習が進められるようにする。また、そのめあてに沿って振り返りを行い、次時への見通しをもって単元全体を貫いて学習意識をつないでいくようにする。相手意識、目的意識は年間行事に結びつけ、保護者への報告とする。

○ 「メディア創造力」育成は、ここで！

教師が、この単元で行うプレゼンテーションのモデル動画を作成する。そこから既習の報告会との違いを考えさせる。「時間制限」「ノー原稿」という制約を設けることで、内容や言葉の吟味、資料の数などを考えさせる。そのために動画再生を活用し、何度も互いの発表練習を見合って相互評価できる場を設ける。

5 メディア創造力の評価

学習の道筋に沿って、毎時間の個人のめあてと、振り返りに学習者の変容が自覚した記載がされているか見取っていく。

